

第51号 奈良LDの親の会『パンジー』

平成31年 1月 発行

パンジー通信

ホームページ <http://www.pansy-nara.net/>

「パンジー」はLD及びADHD、アスペルガー症候群、高機能自閉症、軽度知的障害など、発達障害児（者）の親の会です

パンジー通信五十一号 目次

- ・全国 LD 親の会 近畿ブロック研修会報告 H30/11/182~4
- ・運営部 パンジーの会講演会報告 5
- ・運営部 感覚統合学会研究大会報告 6
- ・アド部 行政等訪問活動報告7~9
- ・小中学部 県教育委員会訪問 10~11
- ・土曜会児童部・青年部 たのしいクリスマス会 12
- ・パンジー各部活動報告
 運営部・小中高部・アド部(高卒相当以上)・ピアカン、土曜会各部
 13~14
- ・お知らせ 書籍紹介 15
- ・お知らせ 会員募集 16



皆さま、2019年を迎え今年もよろしくお願ひ致します。

昨年11月は、作業療法士の嶋谷先生を迎え、「発達が気になるお子さんの日常生活のサポート方法」の講演会を実施して、40名の方に参加していただきました。久しぶりに、お子様を預かる「託児所」も設置し、土曜会の模擬も見て頂きました。映画を見て頂いたあと、追っかけっこになったようですが会員みなさまのご協力で、何事もなく無事終了できました。多くの方がパンジーの活動を知って頂くよい講演会となったと思います。

これからも、皆さまと一緒にパンジーの会を広く知ってもらい、会員拡大に努めてまいります。そして、我が子の成長を会員相互の支援で見守っていきましょう。

近畿ブロック研修会報告

平成30年11月18日13時10分～16時30分 神戸市青少年会館6階サークル5 参加者：20名

13時10分評議員の齊藤さんより開始の挨拶があり、プロジェクターとiPhoneを使って、岡山におられる”はあとりんく”の石原さんから「SNSの活用と会の活動」についてお話をして頂きました。

①アジア太平洋ディスレクシア・フォーラムについて

2020年、岡山にて「アジア太平洋ディスレクシア・フォーラム」が開催される。

2019年6月29日、岡山市内でプレ大会開催。

本大会ではディスレクシアの世界を知ってもらおうと、専門的なもの、市民向けのものや、倉敷でディスレクシアの方々の作品展で芸術も楽しむ予定。

②SNSツール活用について

役員とはLINEで連絡し、メインはFacebook。「岡山県LD等発達障害親の会はあとりんく」ページを立ち上げ、活動の宣伝ツールとして活用。

イベントページ上に講演会、書籍紹介をしたり、写真や動画を投稿している。

注意点もあるが、1)管理者を複数おける 2)投稿が簡単で、思ったその場で何回も投稿できる 3)同じような会とも交流できる等メリットも多く、積極的に活用している。

③はあとりんくの活動

- ・小さな会で、自閉症支援が進んでいる地域性もあり、「他の会と同じ様なことはしない」「はあとりんくと言ったら、あの〇〇だよ」と言われる活動をと考え、講座開催時には「読み書きの困難」という文字をつけて開催している。限定された障害ではなく、色々な人と繋がり易い。

- ・子どもの活動を中心にしている。

○iPhone iPadを使用して、アプリ、アクセシビリティ、UDトーク等の活用を学び、録音機能を使ったり、学習に有効な利用をしている。皆の要る所で一人だけ使用する事を嫌がっていた本人も、自分で考えて「これがあれば自分はこれができる」と分かってきて、自分から「〇〇にいいので使わせて欲しい」と言える様に変化してきている。

○中高生スピークチーム

ソーシャルスキルを養うため、大学の学生の方と交流し、ゲーム、学園祭、キャンプ等をしている。青年部の人数が増えて行くことを目指している。

○助成金を取るための方策を推進している。

助成金を取るにはどんな活動をすればいいかを考えるため、会の活性化に繋がる。

○会報に広告を掲載。イオン黄色いレシートキャンペーンに参加。

以上、お話を聞いての質疑応答、4グループに分かれて各グループで自己紹介

その後、SNSの活用についての話し合い、各グループ発表

①SNSの活用は活動を広げる手段として必要でとても有効だと思うが、使用するには詳しい人が必要。担当者の引継ぎやプライバシーの問題、情報の精査も必要。

②SNSを活用しているがLINE、パソコンをしらない人もいる。その人達も大事にしていかないといけない

④紙ベースも必要。

⑤スマホを使用していてパソコンを見ない会員が増えた。情報が多い場合はホームページの掲示板で、是非見て欲しい物はメールで使い分けをしたり、会員外についてはSNSで講演会を掲載する等使い分けをしている。青年以上の世代の人には紙使用が良い。会報も紙面が必要。

⑥地方の会は講師を招くことも大変なので、ネットでつなぐと講師に来ていただく事なく話を聞くことができる。講師の承諾がとれれば、ビデオに取って何度でも聞く事もできる。全国LD親の会のフォーラムに参加し難い会も多いので、希望会にはネットで繋いで参加できる様にできないか。

⑦弁護士の先生と相談員の方をお呼びしての勉強会『犯罪加害者・被害者になったら、ならない為に』で、「暮らしのルールブック」(知的障がい・発達障がいのある人のために作成された「してはいけないこと(犯罪)」「気をつけたいこと」がわかりやすいイラストで書かれたテキスト)を紹介された。取り寄せ中なので、次回近畿ブロック会議に持参予定。

次に各グループで今後の活動(いくつか提示のテーマから選択)を話し合い、話し合った事を記載したメモを模造紙に貼付して行き、終了後掲示発表。

発表内容と貼付されたメモからできるだけ多くの項目を抜粋しました。

役員運営について

- ・自主的には出ないのでアイウエオ順・入会の時期の上から順番に等機械的に決めてしまうのも一つの方法
- ・役をしてもらい易い様、会報印刷を外注にする等、役員の負担を減らす。
- ・役員にはメリットと面白さが必要で、前任者のサポートも必要である。
- ・まずは小さな仕事からお願いしてみて、メリットを説明しながら。
- ・年度初めに、会報のパソコン作業・合宿のお手伝い・ホームページ関係の手伝い等「お手伝いアンケート」をとっている。適材適所が一番。
- ・やりたいことを聞いて、その企画をやってみる。
- ・役員になる利点をどう伝えていくか?
- ・同じ役員が何年もしている。10年している。役員をする人がいない。
- ・順番にすると、番が来るとやめてしまう人もいる。
- ・役員はしないが、スタッフとして積極的に参加してくれる人もいる。



行事等、企画運営について

<子・本人活動>

- ・青年の料理教室…一人暮らしをした時に手軽に作れるもの。
- ・18歳以上と父親ボランティアとの飲み会…予約は本人。
- ・スポーツ教室…青年に身体を動かす機会を!
- ・中高生が年4回ボーリング・カラオケを自分たちで予約し、自分たちで駅集合。
- ・夏のデイキャンプ…中高生が企画運営し小学生を招待する。買い出し、火おこし、切ることなど自分たちでする。
- ・カラオケでのルールを決める(アニメソングは2曲までとする等)
- ・男塾…男子がボランティアの方と企画し活動する。(ボーリング大会、ショッピング、クリスマス会)
- ・女子会・お茶会・カラオケ。
- ・小学生…クリスマスお菓子作りとパーティー。中高生がサンタとなりプレゼントを配る。
- ・演劇教室…発表の場を作る(総会時等)
- ・算数教室…月1回 それぞれの課題をボランティアの先生と取り組む。
- ・夏休みに読書感想文を書く。皆と一緒に仕上げる。
- ・体操教室(元気一ズ)…月1回 先生の指導により楽しみながら体を動かす。
- ・年1回、運動会をする。
- ・春のフリーマーケット…家で作ってきたもの、ゲームや手作り品、要らないおもちゃ等を売り買いする。お金のやり取りのスキル。
- ・チャレンジクラブ…ソーシャルスキルトレーニング。
- ・野球観戦…チケットを譲ってもらった時に数名で行く。

<親の活動>

- ・あさの会…昼食を作り食べ、悩みを聞く。講師を招いて勉強会。
- ・夜乱会・忘年会…各グループで交流を深めるため食事会、飲み会をする。

- ・委員会や会報印刷後のランチタイムのおしゃべり。
- ・勉強会・研修会…弁護士さんによる研修、親亡き後の勉強会。
- ・県 支援連携委員会…親の会として意見を聞いてくれる。
- ・イオン黄色いレシートキャンペーン
 - …毎月11日のイオン・デーに黄色いレシートを専用ボックスに投函すると、レシートの1%が地域のボランティア団体などに寄付される。
- ・会のリーフレット見直し…時代に合ったものに。

<一般向け>

- ・研修会・講演会の開催、行事や活動をフェイスブックで知らせる。
- ・会報のホームページへのUPは、会員への配慮のため1~2ヶ月遅れで掲載。
- ・大学へ学生ボランティアを募集…特別支援教育を勉強している学生を募集。
- ・地域の他の組織とのつながり

<今後やりたいこと>

- ・他の会とコラボした活動。
- ・本人たちのスポーツ活動、18歳以上の体を使った活動（ボール、山登り）
- ・弁護士さんの話…法にふれる行為をした時の対応。



新入会員を増やすには

- ・SNSの活用…ホームページ・Facebook。
- ・勉強会の開催。魅力的なイベント（企画）
- ・人の集まる場所、会館などにリーフレット、会報を置かせてもらう。
- ・学校の親の会で、活動勧誘、会員の声かけ。 ・役員の負担を減らす。
- ・親同士が楽しめる会の活動。親の息抜き（忘年会・ハイキング等）
- ・当事者の活動を多く。会の作業を当事者に手伝ってもらう。
- ・会員紹介の時間を作っている。先輩（親）の話を聞くことができる。 ・専門家のバックアップ
- ・新しい会員も大切だが、今いる会員を大切に。

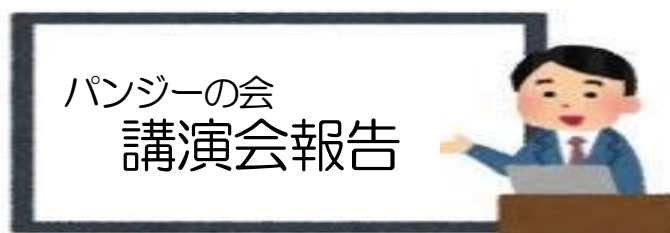
会の運営について

- ・会費はしっかり取って、しっかり活動する。
- ・会費が高い？無料参加にしている。役員の活動費、交通費がかかる。
- ・会費に見合った活動ができていないような気がして悩んでいる（活動費の悩み）
- ・会員にどんどん役割をもたせて、運営委員などを作っていく。役割分担の割振り。事務局の仕事の分担。
- ・役割が多いと、少しだけ手伝いたい人が参加できない。
- ・子どもの成長に伴い親も成長してきたので、親の意識も変わってきて貢献したい気持ちも出てきた。
- ・負担の少ない役員から運営委員になって手伝ってくれる人もいる。
- ・発達障害者支援センターの委員になる。 ・役員構成…代表1人 副代表は複数。
- ・代表以外は、毎年交代し少しでも関わる（小さい会）
- ・役員の交流で視野が広がるので手伝いたいと思う。
- ・運営委員会＝親たちの相談会も引き受けている。 ・役員メール・運営委員メールを活用。
- ・全国LDに参加…役割もあるが、行政の会議に参加できてよい。
- ・「かけはし」を活用。行政機関に持って行く。 ・行政機関に毎年挨拶に行く。
- ・県の教育委員会に要望書を提出→当事者の声をあげていく。行政に入っていく。
- ・全国の要望書を作って各県の教育委員会に持って行く。

終わりに…井上理事長より

全国の評議員会が年2回となりブロック会議を年2回にしたブロックもあるが、近畿ブロックは年3回開催している。各会の運営をどうしたらいいか話し合う事ができ有意義なひと時を持てた。全国的に新しい会が増えない風潮はあるが必要がないとは思えない。工夫し、公開フォーラムのネット配信等できる事はやって行きたい。会に持ち帰り、活動を広げて行けたらいいなと思う。

運営部



11月17日に奈良県営福祉パーク2階研修室にて、パンジーの会講演会を開催いたしました。当日は同じフロア内の体育館にて無料託児も行い、定員を超える40名(一般38名パンジー2名)の方々が講演会にご参加いただきました。

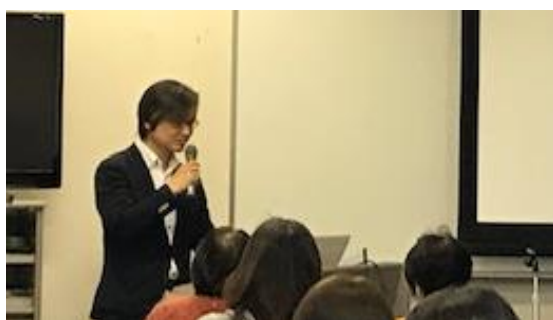
入船代表の開会挨拶の後、当会にて毎月第二土曜日に土曜会活動をしてくださっている天理市立丹波市小学校通級指導教室 特別支援教育士SV大庭譲治先生から「発達障がい児により沿ったパンジーの土曜会活動～体幹運動の大切さと遊びから学ぶルール習得～」と題し、お話しをしていただきました。自尊心を持つことがなによりも大切であること、自分自身を知ること、そしてたくさんの経験を積んでいくことの大切さをお話しいただきました。

次に、「発達が気になるお子さんの日常生活のサポート方法～感覚・運動を中心に～」と題し、奈良県総合リハビリテーションセンター作業療法士嶋谷和之先生よりお話しいただきました。たくさんの資料をもとに、作業療法士の観点から、具体例をもとにお話しいただき、感覚統合をもとにしたことへのアプローチの重要性を改めて理解することができました。

その後、事前に参加される方からいただいた質問に、先生方からそれぞれ回答をいただきました。「失敗を恐れて、チャレンジしない性格です。どうやって接したらよいでしょうか?」「作文が苦手です。どうしたらよいでしょうか?」「来年の就学に向けて、一斉指示に対応できるか心配しています。」などの質問に、作業療法士の観点から、そして、小学校の特別支援教育士の観点からお応えをいただくことができ、とてもわかりやすく、またすぐに実践できる内容のお答えをいただくことができました。

今回の講演会では、参加者の方々に体育館にて土曜会活動をご覧いただきました。また、当会の活動についてもご紹介させていただきました。

講演会開催にあたりお手伝いいただきました会員の方々、また、奈良県発達障害支援センターでいあーおよび全国LD親の会にはご後援をいただきましてありがとうございました。今後も、さまざまな方法で当会の周知活動を行っていきたいと思いますので皆様ご協力のほど、よろしく願いいたします。



運営部



感覚統合学会研究大会報告



パンジーの会が後援をしました感覚統合学会研究大会が11月3日(土)4日(日)奈良県文化会館にて開催され、ご招待を受け両日参加をしてきました。

2日間で1500人を超える学会会員や親の会、作業療法士、教師などたくさんの方々が参加されていました。

国際ホールでは講演、第3会議室ではポスター展示、小ホールでは機器なので展示、ロビーでは書籍や玩具、教材教具の販売が行われ、見るのもやっとなほどの人ばかりでした。

初日は、大会長ハートランドしぎさん子どもと大人の発達センター宮崎義博先生より挨拶があり、土田玲子先生より会長挨拶の後、口述発表、特別企画へと続きました。17日に当会の講演をしてくださる嶋谷和之先生も小松則登先生の口述発表で司会をされていました。

感覚統合というものが、訓練になることなく、作業療法士の方との関わりの中で子どもの「やりたい」という気持ちを引き出し、自身の身体に気づき、そしてそのことがあらゆるものへの関係性へとつながっていく、読み書きができないことに対し、そのことばかりにとらわれず、何が原因なのか、そしてその原因に対し、どうアプローチしていくのかを探ること、遊びを通して、楽しみながら取り組む様子を映像や写真で見せていただき、ただただ書く練習をさせていた自身の子育てに深く反省をするばかりでした。

また、成人期の生活・仕事と感覚統合というテーマでは、いかに本人にあった環境で本人の特性にあった仕事をするか、そして、英会話と同じように、ずっと継続して感覚統合を取り入れていくことで、効果を持続させていく効果があることを聞き、我が子と一緒に体幹のトレーニングやバランス感覚を取り入れた運動をまた再開しようという気持ちがわいてきました。

2日目の口述発表で、蛍光灯の光の点滅が苦手な方の話で、私たちが感じることのない1秒間に50回の点滅で蛍光灯が光っている状態を「チカチカしてつらい」とその点滅を感じるなどの感覚調整障害を映像で見せていただき、自分の息遣い、湾曲して見える世界観、光が私たちの何倍も眩しい、といった症状に大変驚きました。私たちとはあまりに感じ方が違い、生きづらさをいかに解消したり回避したりするかが大切であると痛感しました。

特別企画は遊ぶことと感覚統合というテーマで、つい私たちは「これはこういうもの」と解釈をして捉えがちですが、感性で体感し捉えていくべきであり、子どもたちの探求心や無駄に思われる非生産的な単純な遊びの中にこそ子どもが本来獲得すべき満足感があり、やらせたいことをやらせる訓練は悪いとは言わないが、その先に広がりはないとの話で、これも自身の子育てを振り返り

「この子に必要だからさせなくては」「今、この子にはこれをさせよう」とそればかりに捉われ、子どもの純粋な探求心を奪ってしまっていたことに反省しました。

そして最後に特別講演があり、池谷裕二先生より「脳の意味論」という題材でお話がありました。いかに自分が固定概念に凝り固まっているかを反省されられるお話しで、感覚統合や発達障害といった話ではありませんでしたが、慣れ親しんでいる常識というものに自分が支配されすぎていることを改めて気づかされました。

大変有意義な二日間でした。

参加させていただき、ありがとうございました。



アド部

行政等訪問活動報告

1. 日時 平成30年9月18(火) 9時～15時 2. 参加者 (パンジーアド部) 午前:4名 午後:3名
 3. 配布資料 パンジー通信9月号
 4. 訪問概要

(1) 奈良県労働局 職業安定部職業対策課

- ・奈良第三地方合同庁舎2階会議室 9時～10時
- ・相手先:A 課長補佐、B 障害者雇用担当官
- ・入手資料:奈良県の障害者雇用状況、障害者トライアル雇用助成拡充、障害者雇用義務対象に精神障害者付加等

労働局から配布資料の説明があり、その都度質問等をしながら懇談を実施した。

奈良県の障害者雇用数は、前年比71人増、実雇用率2.62%全国一位、法定雇用率達成企業割合63.2%全国5位(h29.6.1現在)、新規求職申込件数は1025件、紹介件数1891件。精神障害者の求職は、711件で就職件数は、389件と昨年よりさらに13.7%増加しているとのこと。精神障害者(手帳取得者)の就職件数は、10年前の平成19年の62件から平成29年では、389件と増加し全体に占める割合も14.4%から38%へと増加している。

平成30年4月から雇用率算定基礎に精神障害者を加えて法定雇用率を算定開始、民間企業の雇用率は昨年の2.0%から2.2%へ、国、地方公共団体等は、2.3%から2.5%へ引き上げられ、民間の雇用率が2.2%に引き上げられた、対象となる事業主の範囲が昨年の50人以上から、45.5人以上の企業に変わった。発達障害者の場合、手帳(療育または精神)保持者で、週20hr以上30時間未満の方が0.5から1.0人とカウントされる。

昨年9月から「精神・発達障害者しごとサポーター養成講座」一般の従業員を主対象に精神障害、発達障害に関して正しく理解いただき、職場における応援者(精神・発達障害者しごとサポーター)となっただけのための講座(講義75分、質疑応答15～45分低度、企業へ出向くことも含む)を開始したところ、昨年の半年で、262人が受講し、今年4月から9月現在で297名の方に受講していただいたとのこと、熱心な企業は、100名ほど一度に参加していただいたり、現場の方を2人ずつ、何週にもわけて参加していただいたりしたとのこと。現場の方に障害者を理解していただき、一緒に働くことがあたりまえの社会になることを大いにすすめていただくようお願いした。実雇用率は全国1位でもその定着率は把握できていないとのことで、以前からお願いしている定着状況の把握とそのための支援をお願いした。

労働局では、今年から障害者を2人採用(事務)し、1人の方は就労経験のない発達障がい者、皆と職場で一緒に働きながら、問題点とその解決策を見出していこうと始めたとのこと、まず公的機関から障害者採用を積極的に進め、民間企業をも指導していただくようお願いした。

当方からは、就労コーディネーター、ジョブコーチ等の就労時、就労後の継続したフォロー、企業側の障害者への配慮事項の継続化、職場の支援者の確保等や就労時の段階的作業負荷や就労労働条件確認等のフォロー等、きめ細かな対応、他の支援事業所との連携、企業の指導等をお願いした。また、障害者採用は、ほとんどがバイト等であるが、正社員への道も開拓してほしい旨をお願いした。

(2) 奈良県産業・雇用振興部 雇用政策課

- ・奈良県庁本館4階会議室 10時30分～11時30分
- ・相手先:C 能力開発係長
- ・入手資料 障がい者の態様に応じた多様な委託訓練、仕事力養成科障害者職業訓練

県実施の下期の訓練(仕事力養成化:2か月訓練ハローワーク申込)は、すでに募集(8/13～9/4)を締め切ったが、予定募集人員が集まらず中止したとのこと。案内は政策課ホームページでも募集期間に掲

示していたとのことでしたが、もう少し訓練案内先、条件等を見直しし、定員が集まるよう工夫してほしい旨を要望するとともに、家族会の成人部にもメールで教えていただくようお願いした。

障害者の態様に応じた委託訓練事業(実践能力習得訓練科)は今年も継続中、ハローワークで申し込み、求職相談をしたうえで是非を審査し、県へ紹介 県のコーディネーターが訓練先を決定し、一ヶ月(60hr以上)の訓練を実施していくもの。 介護関係の求人は多い、昨年は、9名受講し5名が就労。(例:組立、塗装、清掃、調理補助、食品製造・販売、事務等:協力事業所約80箇所)

会員からは、実績を踏まえた各種訓練の開催とその情報の適切な紹介、就労前の適正診断の強化とよりいっそうの障害特性を踏まえた必要な訓練機会、支援員の増員、就職先の紹介、職場の開拓、就労後のフォローの実施等をお願いした。

(3) 奈良県健康福祉部障害福祉課

- ・奈良県庁本館3階会議室 11時半~12時30分
- ・相手先:D課長補佐、雇用促進係E係長、F主任主査
(特別支援の方の職場実習先や障害者雇用先の紹介・開拓や事業所の監査等を実施。
主に障害者雇用を担当し、4階の雇用政策課は一般就労が主担当とのこと)
- ・入手資料 福祉医療部予算:事業名及びその内容、奈良県障害者雇用促進ジャーナル はたらく 2018.9、2018.2

県から就労支援の概要を、年度予算案の概要資料にて説明を受けた。

一般就労への支援として、主要なものは、なら障害者「はたらく」推進事業 約36.5百万円 障害者就業・生活支援センターの設置、「障害者はたらく応援団なら」49社の運営、障害者ニーズに応じた職場実習の受入拡大を推進、県内企業等を対象とした精神障害者雇用セミナーの開催等、精神障害者・発達障害者雇用企業サポート事業:約940万円 相談員2名で企業等の支援実施(ゆいの会等)。その他として特例子会社設立等支援事業 約1635万円 南都ビジネスチャレンジは、来年から開設の予定とのこと。障害者職場実習促進事業約110万円 ジョブサポーターを養成・登録し、職場実習先に派遣するもの等合計63.5百万円。

従来なら行政が自ら実施すべき仕事、委託事業として、障害者就業・生活支援センターや発達障害者支援センターに委託され、センターの皆さん一生懸命に活動はしてくれてはいるが、忙しいためなかなかつかまらないことあり、役割の見直しや、人員の増員等、関係箇所が良く連携して、県が企業に対して指導力を発揮してほしい。国や県等の雇用率の不正を新聞等で目にし、寂しい思いをしている。雇用側の目線ではなく、障害者の立場に立った施策をしてくれるためには、本庁等で自ら積極的に各種障害者を雇用して実情を把握していただき、意識改革をしてほしい旨を要望し、障害の程度に応じ、各人が就労できる社会の構築をお願いした。

会員からの要望として、県民日より2018.9をみるとP16には、障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会を目指して、障害を理由とする差別はやめましよう記載しているのに、P24では身体障害者対象県職員採用選考試験を募集している、他の障害者も採用してください。また、p16記載のヘルプマークですが、裏に個人情報に記載したシールを貼るなどになっているが、一般の人がすぐに見えないような、隠せる工夫をしてくれるよう要望した。(自治体によっては、袋に入れるようになっているものもあるようです)

(4) 奈良県中小企業家同友会

- ・奈良県経済会館407号室 14時~15時
- ・相手先:G事務局長代行

景気は横ばい、障害者を雇う余裕が各企業にでてくればいいのだが、難しいとのこと。地域に根づく企業が生まれ、そのなかで、障害者雇用も積極的に実施してくれる企業が育つことをお願いした。各人の子供の就労概要を説明し、現場で障害者がはたらく場合、いかに上司や同僚の周りが、必要な配慮をしてくれるかが大事と説明。企業が障害者雇用を検討しようとした際に、相談する行政窓口として県雇用政策課の訓練事業を紹介した。

追記

・9月12日(水)9時半から、パンジー通信9月号とかけはしの印刷を、奈良市はぐくみセンター1階ヴォランティアセンターで実施しました、当日は、小中学部から10名程、アド部から4名が参加し、にぎやかに会話をしながら作業もはかどりました。印刷後小中学部のランチ会(ワシントンホテルプラザ)をすることのことで、アド部より2人参加させていただきました。おいしい食事をしながら、若い皆さんの子供さんのお話を聞くひとときは貴重な時間でした。

参考事項1

・9月22日(土)奈良あかるいみらい準備室が開催した**障害のある子の家族が知っておきたい「親なきあと」**後援会を聴講したので概要を紹介します。

「親なきあと」相談室主幹の渡部伸さんは、知的障害の娘さんをお持ちで、東京都世田谷区で手をつなぐ親の会会長をされている方です。近年、著書:障害のある子の家族が知っておきたい「親なきあと」等3冊ほど出していますので読んだ方もいるかと思います。

講演内容は、著書全般内容の概要を説明されたものでしたが、まとめとして、a.社会との接点を持つ子供のことを話せる相手を見つけておく b.障害者に対する制度等の状況は、年々よくなっている、と気楽に構える c.最低限の準備はしておく d.いざとなったら何とかなる。

対策その1 今からやっておくべき準備は何か・・・①将来のことについて家族で話し合ってみる⇒何かを決める必要はない ②一人暮らしの練習を始める⇒ショートステイの利用 ③「ライフスタイルカルテ」を作る

対策その2 将来子供が困らないために、やっておくことは何か・・・①定期的にお金が入る仕組みを用意する(年金、手当、信託など) ②そのお金がこどもの生活に使われる仕組みを用意する。(成年後見、日常生活自立支援事業など) ③病気のリスク対応のために保険に加入する。④生活の場-住む場所を確保する
(もしもここまでの準備が思うようにいなくても、地域のなかで接点を持っていれば、こどもの面倒はきっと周囲の方々がみてくれます)

また、エンディングノート「親心の記録」の紹介がありました。各種講演会等の案内があります。一度ご覧ください。奈良のあかるいみらい準備室のホームページ oyanakiato@akarui-mirai.net

参考事項2

第43回わたぼうし音楽祭(8/5 奈良県文化会館国際ホール)に参加した方から、発達障害の坂本道子さんの「**発達障害の僕の気持**」が紹介されたので、ここに一部を掲示します。作詞・作曲の部入選作品です。

つまずいて つまずいて 起き上がれなくて
悲しくて 悲しくて 理由も分からずに
叱られて また叱られて どうしてなんだろう
苦しくて 息ができないよ 学校が怖いよ

作詞・作曲/ 坂本道子

僕の気持 散らばってて
うまく言えないけれど ふざけてない
頑張っているよ
なのに なぜ できないの
誤解されて 絶望で 死にたくなる時もある。
仲間に 溶け込みたいんだ
役に立ちたいんだ ホントは



歩いても 歩いても 前に進めない
僕だって 行きたいよ 夢をかなえたい ~以下略~

(音楽祭資料より抜粋、問合せ等は奈良たんぽぽの会内へ)

小中高学部

奈良県教育委員会訪問

小中高学部の保護者8人で、奈良県教育委員会を訪問しました。県立高校の通級制度が4月よりスタートし、今後どのように展開されていくのか、また、高校の特別支援コーディネーターの資質の向上にむけてどのようなことをされているのか、といったことなど、現状の質問や、小中学校の支援の現状を話したりと担当の方と2時間、さまざまな意見交換会をしました。

Q 昨年度の高校入試において実施された合理的配慮の具体例や数を教えてください。

具体例としては、別室受験 読み上げ 時間延長 文字の拡大などを行っている。
具体的な件数はお答えできない。

Q 高校受験時に合理的配慮を希望する場合の手続きについて

9月に募集要項が出る時点で、中学校宛に合理的配慮が必要な受験希望者がいる場合、相談してほしいという旨の通達をしている。3年生のみではなく随時相談の受付はしている。
診断書と中学校で行っていた合理的配慮についての報告が必要になる。診断名から配慮事項を決定するのではなく、個々に応じた配慮を行っている。

Q 支援クラスのある高校を教えてください。

今年度から大和中央高校（大和郡山市）で今年から通級の制度が始まっている。
今のところは奈良県では1校。
実施校を増やすかどうかは成果をみてからになる。具体的な予定は現時点ではない。
<通級の取り組みについて>
コミュニケーション、スケジュール管理、進路指導などSSTを行っている。
<入級について>
大和中央高校に属する生徒で教師が必要と判断した生徒が対象となる

Q 高校の支援クラスのある学校を教えてください。

支援クラスはないが、各校に1名特別支援コーディネーターを配置。
コーディネーター中心に生徒の実態の把握、支援を行っている。

Q 小学校、中学校の通級教室の利用について。市町村により利用の条件がちがう。支援級に入っている場合通級は利用できないのか。

支援級に入っている場合は利用できない。通級に関しては必要書類、手続きなどは各市町村の判断で行なっている。



〈参加者感想〉

中学生 母

各市町村により支援の違いに疑問を感じました。教師の方々には、子どもたちへの関わりについてもっと勉強してほしいです。

小学生 母

今回初めての参加で緊張しましたが、高校進学や入試の現状を知ることができ参考になりました。

小学生 母

高校入試における合理的配慮の具体例についてお聞きしました。具体的な実施数を開示していただけませんでしたが、かなりの数の配慮がなされており中学在学中の随時高校入試に関しての合理的配慮の相談が行えることや手続きも明瞭にシステム化されているとのことをご説明いただき、まだ高校入試は先のことですが方向性を持ちながら準備できそうです。ただ、高校における通級や支援級への取り組みがやっとスタートしたばかりのようですので、高校でもさらに充実した支援をしていただきたいです。

中学生 母

県庁に行かせていただき前回のお礼をいえて本当に良かったです。やっぱり行動することが大事だなと思いました。

小学生 母

できない子供も頑張れる支援が広がるとよいと思いました。市町村により差があるようなので埋まっていけばいいなと思います。

中学生 母

中学校の通級教室について、在住の中学校の現状をお話ししました。わが子は支援級入級しているので思った以上に親の満足できる支援を毎日うけていると感じていますが、クラスメイトの親御さん（小学校の時に通級利用）は、今は通級開始したくてもうまく機能していなくて相談窓口の先生も熱心さがなのおっしゃっていて、そのことを今回お伝えしました。

県教の方からは各市町村により通級のレベルに差があるのが分かった考えておきます、とお答えいただき、グレーゾーン子どもたちが本当に必要になった時の通級（取り出しや相談窓口になる先生）の対応を迅速にしてほしいし、今後もっときめ細かい配慮が必要になってくるのではないかと感じました。

小学生 母

学習面でしんどくなった時の相談先についてお聞きしました。

現場の先生方は学校での支援を一生懸命してくださっているが、学習面まで手が届かないところが現状としてあり、学校の先生が担えないところに関して関係機関と連携してフォローしていく体制が整っていけばありがたいと思います。とお話させていただきました。



土曜会児童部・青年部



🎄児童部🎄

12月8日(土) 県営福祉パークの調理実習室にてパフェ作りをしました。土曜会児童部会員と兄弟姉妹合わせて12名が参加しました。ホットケーキミックスでワッフルを作り、ホイップクリームを泡立てました。

缶切りを使って缶詰めを開ける経験が初めてだった子ども達も、教えてもらいながら真剣な様子で開けていました。そして包丁でカットしたフルーツやお菓子を飾り付け。

自分達で作ったパフェを食べて、美味しい!!ととても嬉しそうでした。作ったワッフルは青年部のお兄さんお姉さんにもおすそ分け!おいしくて楽しいクリスマス会です。

最後は、青年部の高校生サンタからのプレゼント!!順番に並んで「ありがとう」とみんな笑顔で受け取っていました。

🎄青年部🎄

土曜会で事前に大庭先生と子どもたちで話しあい、1人金額600円くらいのプレゼントを準備し交換をしました。ビンゴセット、ウノ、トランプ、ジェンガ、爆弾ゲーム、ボトルシップゲームをそれぞれが用意しゲーム遊び。仲間とともに計画をしたクリスマス会は楽しく、大成功!

その後、児童部の子どもたちへサンタに扮してプレゼントを配ったり、手作りお菓子を食べたりと、児童部との交流を楽しみました。



パンジー各部活動報告 & 今後の予定



《 運 営 部 》

活 動 報 告

- 9月12日 パンジー通信印刷発行 (はぐくみセンター)
- 11月 3日 感覚統合学会研究大会
～ 4日 (奈良県文化会館)
- 11月17日 パンジー講演会
「発達が気になるお子さんの日常生活の応援と教材教具の工夫
～感覚・運動を中心に～」(福祉パーク)
- 11月18日 近畿ブロック研修会 (神戸市青少年会館)
- 11月23日 第26回日本LD学会総会
～25日 (新潟コンベンションセンター朱鷺メッセ)
- 12月 2日 パンジー全体交流会 (あすなら苑)
- 12月 9日 近畿ブロック青年の集い (琵琶湖博物館)

12/9全国LD親の会近畿ブロック青年の集いがあり、当会の大学生が1名参加しました。琵琶湖博物館で各会の青年と交流し、化石や淡水魚などを鑑賞しました。



今 後 の 予 定

- 1月19日 パンジー新年会 (サンブーペー/大和郡山)
- 1月23日 パンジー通信印刷発行 (はぐくみセンター)
- 1月29日 発達障害者支援センターでいあー市区町村職員研修会
- 2月24日 パンジー役員会議 (あすなら苑)
- 3月10日 近畿ブロック会議 (岡山きらめきプラザ)

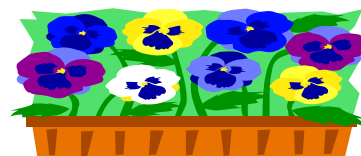
《 小 中 学 部 》

活 動 報 告

- 9月19日 サロン川西
- 10月17日 サロン川西
- 11月21日 サロン川西
- 12月19日 サロン川西

今 後 の 予 定

- 1月16日 サロン川西
- 2月20日 サロン川西
- 3月 9日 レクレーション (ボーリングの予定)
- 3月20日 サロン川西



《 アド部 》

活 動 報 告

- 9月18日 行政等訪問(労働局、県庁他)
- 11月17日 パンジー講演会参加
- 12月 2日 全体交流会参加

今 後 の 予 定

- 3月 ランチ会予定

《 ピアカン 》

活 動 報 告

- 9月12日 印刷参加 おしゃべり会
- 9月27日 ペアレントメンター活動 (斑鳩)
- 11月17日 パンジー講演会 託児手伝い
- 11月30日 ペアレントメンター活動 (きららの木)

今 後 の 予 定

- 3月 ピアカウンセリング予定

土曜会各部

土曜会は、特別支援教育士SVの大庭譲治先生が共に活動するソーシャルスキルトレーニング（SST）学習の場です。土曜会活動は、小学生の児童部、中高生の青年部、18歳以上の成人部の3つの部に分かれて活動しています。

児童部

活動報告

- 9月 8日 土曜会活動/福祉パーク
- 10月13日 土曜会活動/福祉センター
- 11月10日 土曜会活動/福祉センター
- 12月 8日 クリスマス会
(福祉パーク 調理実習室)

今後の予定

- 1月12日 土曜会活動/福祉パーク
- 2月 9日 土曜会活動/福祉パーク
- 3月 9日 土曜会活動/福祉パーク



青年部

活動報告

- 9月 8日 土曜会活動/福祉パーク
- 10月13日 土曜会活動/福祉センター
- 11月10日 土曜会活動/福祉センター
- 12月 8日 クリスマス会/福祉パーク

今後の予定

- 1月12日 土曜会活動/福祉パーク
- 2月 9日 土曜会活動/福祉パーク
- 3月 9日 土曜会活動/福祉パーク



成人部

活動報告

11月17日 大和八木 呑み猿
11名参加しました。
今回も大和中央高校の先生が参加していただきました。就職のこと、会社での悩み、最近ハマっていることを肉とワインを戴きながらワイワイ話しました。

今後の予定

2月17日(土)開催いたします。
幹事は、H君です。

パピポラを募集しています!!

お知らせ



くらしのルールブック (社会福祉法人 南高愛隣会)

知的障がい・発達障がいのある人のために作成された「してはいけないこと(犯罪)」「気をつけたいこと」がわかりやすいイラストで書かれたテキストです。

定価：250円(税込) *送料別



●こんな方にお勧めです。

- ①グループホームで暮らしている、職業訓練をしているなど、暮らしのルールを学びたい、知的障がい・発達障がいのある方
- ②一般企業で働く、知的障がい・発達障がいのある方
- ③特別支援学校生

●こんなことを目的にしています

- ①「してはいけないこと」「『犯罪』になること」を知る。②加害・被害ともに犯罪に巻き込まれる危険のあることを知る。③どうすればいいのか、を考えるきっかけを作る。

第1章 してはいけないこと ・ものを盗んではいけません ・だまって入ってはいけません ・暴力をふるってはいけません ・人をだましてはいけません ・火をつけてはいけません ・性犯罪をしてはいけません ・ネット犯罪をしてはいけません ・刃物を持ち歩いてはいけません ・違法薬物を使ってはいけません

第2章 気をつけたいこと ・インターネットを使う時はきをつけよう ・自分の情報は他の人に渡さない ・自転車はルールを守って乗らしましょう ・人から誘われたときは気をつけよう ・やめられなくなることがあります ・危ない目にあたり、嫌な思いをしたりします

第3章 悪いこと(犯罪)をしたら・・・ ・悪いこと(犯罪)をしたらどうなるの ・刑務所に入るとどうなるの ・悪いことを何度もするとどうなるの

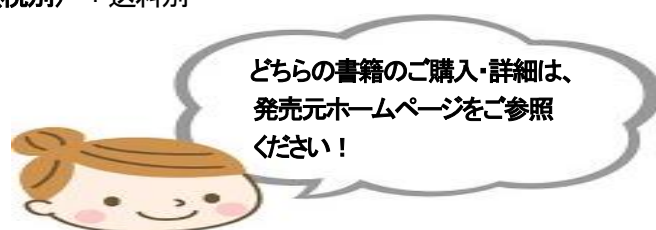
あたらしいほうりつの本 (全国手をつなぐ育成会連合会)

障害のある人が地域でくらししていくために、いろいろな支援(お手伝い)やサービスが用意されています。

しかしながら、今の制度の多くは市町村の役所で手続きをして、決定を受けないと使うことができず、どういうサービスが使えるかはできるだけ自分で調べる必要があります。

この本では障害のある人が地域でくらししていくために必要なサービスを、できるだけ分かりやすく紹介しています。特に、障害のある人のくらしを支える福祉サービスを中心に取り上げています。

定価：1,200円(税別) *送料別



お知らせ

会員募集中

パンジーの会は、LD及びADHD、アスペルガー症候群、高機能自閉症、軽度知的障害など、発達障害児（者）の親の会です。NPO全国LD親の会の一員です。

子どものこんなことで悩んでいませんか？

幼児期から学童期にかけての早期発見のポイント

- ◆ 落ち着きがなくじっとしてられない。
- ◆ 集中力にムラがある。（好きなことには集中できる）
- ◆ 身の回りの整理整頓ができない。忘れ物が多い。
- ◆ 手先の不器用さが目立つ。
（はさみの使用、ボタンのかけはずし、紐結びなど）
- ◆ 全身を使った協応運動が苦手である。
（ボール運動、縄跳び、跳箱、鉄棒、マットなど）
- ◆ 文章の内容把握やまとめることが苦手である。文法的な誤りが多い。
- ◆ 学力（読み、書き、計算など）のつまずきが目立つ。
（基本的な数概念の理解・乱雑な字、誤字、脱字・たどり読みなど）
- ◆ 言葉の発達に遅れが目立つ。
- ◆ 自分勝手な行動が多く仲間から外れがちである。
- ◆ 人とのコミュニケーションが苦手で集団行動がとれない。
- ◆ 同じ質問を繰り返したり、特定のものにこだわる。
- ◆ 日時、左右の概念ができ上がっていない。
- ◆ 場所や位置が分からないことがある。

上記の項目が全てあてはまるのではなく、子どもによって様々なあらわれかたをします。一人で悩まず、ご相談ください！



パンジーの会 活動内容

- ☆ 子どものソーシャルスキルや運動機能の向上を目指し、LDスーパーバイザーの先生の指導を受けた「土曜会」の運営
 - ・ 小学生 毎月第二土曜日体育館にて「運動を通じたソーシャルスキル訓練」
 - ・ 中高生 " " 「自らの考えで話し合い団体活動を企画し運営」
 - ・ 成人部（18歳以上）年3回、離転職を防ぐべく、大人としてのコミュニケーションをテーマとして懇親会を自ら計画し、互いの思いを聞き合う
- ☆ キャンプ、クリスマス会、ボーリング大会など、子どもたちの友だち作りや社会性のトレーニング等の活動
- ☆ 会全体の集まりを年2回開催・親同士の交流会・専門家による講演会や研修会および相談会
- ☆ 当会会員のピアカウンセラーとのピアカウンセリング
- ☆ 最新の情報や活動報告や計画などを掲載した通信の発行（年3回）およびメール配信
- ☆ 月会費約500円（年払い） **会員・賛助会員 随時募集中！**

お問い合わせ・詳細はこちらから
 ホームページ
<http://www.pansy-nara.net/>
 メールアドレス
pansy.nara.ld@gmail.com



活動は随時、フェイスブックにて公開中。ぜひご覧ください。

